明治三十一年十月十八日印刷
明治三十一年十月二十日發行

婦人衛生雜誌

第百七號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第百七號
目次

講演

◉水の話　衛生試驗所技手　丸山長四郎君

官令

◉文部省令第二十號學校傳染病豫防及消毒方法

衛生叢談

◉非醫士療法につきての注意◉醫士の診察を受くる時の心得◉挫傷◉創傷◉出血につきて◉骨折◉失神者◉人身の構造及官能◉身体の勞働による食量◉救急箱の裝置◉◉鷄卵の蛋白と蛋黄◉肉類の鑑定◉赤痢患者

◉大日本婦人衛生會記事

◉廣告數件

◉大日本婦人衛生會決算報告

大日本婦人衛生雜誌
第百六號
目次

講演

◉インフルエンザに就きて　醫學士　高田耕安君

◉産婦の攝生

◉異狀なき妊婦の攝生法

◉妊娠の醫治

衛生叢談

◉犬に咬まれたるときの所置◉恐水病◉看病法◉諸種の遺傳病につきて◉體質及ひ體格に付きて◉男女兩性を來す特別の病氣に付きて◉年齡と疾病との關係◉職業習慣風俗により生ずる疾病の療介◉通俗衛生◉各種傳染病赤痢◉食物消化時間◉助産婦經驗談◉肺結核の小兒の聲◉果實と僂麻質斯其他の諸病

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百七號
（明治三十一年十月二十日發行）

講演

◉水の話（例會講演）

衛生試驗所技手　丸山長四郎君述

私は今日水の試驗を致し、且つ水に就て些か御談話を致すつもりで御座いましたが、何分場所も此通りの處であり、殊に時も遲くありまして、充分に御噺しをいたすことは出來ませぬ、因つて本日は試驗のかたはら極く簡單に大畧を述べて置かうと思ひます。

先づ東京府下の用水には二種御座います、則ち井戸の水と上水でございます、而して上水の中には神田上水、玉川上水、千川上水と三ヶ所に分れて居ります、先づ上水の事を御話すると、神田上水は井の頭東京より七里程の池から湧き出でます、私はその水源をは調査に出懸けましたが、井の頭の辨天の池から湧出する水は餘程清水である、其水源で試驗をすると、水質が非常に宜い、併し東京へ來る上水には其途中で、妙福寺善福寺の二ヶ所の池の水が混じて居る、而して水源から四五里の間田甫などの中を通つて六尺位ゐの路巾で流れて居る、私が水源調査に往つて、大に駭きましたのは、此水が一ヶ所は上水に參り、一ヶ所は田を潤ほす樣になつて居る、而して之を田用水と稱へて居る、處が田を潤ほした水は終に何處に落ちて往くかと云ふに、矢張り上水の中に落ちて往く、故に五月頃から九月十月頃にかけて、府下

水の話

の用水は非常に惡るくなります、私は丁度一年間神田玉川兩上水を引續いて調査したが、非常に此季は水が惡るうございます、此神田上水が府下に入る處の口は小石川の關口、ソレから造幣の方に參つて日本橋の方に往き、又本郷の一部分を通ッて居る、併しだん／＼府下に入るに從ッて非常に水質が惡るくなります。

又玉川上水の方は青梅より二里程手前ある羽村と云ふ處に關があッて夫れから玉川の水を導き川の樣になッて流れて來ます、其關の處の水を調でて見ると案外清潔で有ります、併し私共が其岸邊を通ッて見ますると、隨分塵取から塵埃を此上水の中に投け込んで居る者などか御座います、是れとても水流の途が極めて安心と云ふ譯にはいかない、併ながら玉川上水の方は神田上水の如く一度田を潤した水が落ちて居ると云ふやうなことはない樣です、故に大體玉川上水の方が淸らかで有ります、神田上水は田を潤はした濁水が皆落ちて居るから府下に這入る水は甚だ不安心で御座います、東京の神田邊では昔から水道の水を遣うのを愳る風があるが、能く調査をして見ると甚だおかしい、此水を沸した湯を遣ッてもあまり威張ることは出來まいと思ひます、玉川上水でも神田上水でも東京に入りて下流に到るに從て非常に水が惡るくなります、何故と云ふに目下の水道は實に不完全極まるからでございます、茲に神田上水を五ヶ所で試驗した一年の平均數が表にあッてあるから後で御覽を願ひます

水質成蹟表

明治廿二年六月より廿三年五月に至る滿一ヶ年

間四十九回分析の平均(水十万分中の分量)

採酌地	固形物總量	格魯兒	過滿俺酸加里の褪色量(有機物の試驗)
關口	九、一四	〇、五六	〇、一八
水道端側	九、五〇	〇、六二	〇、一九
本町河岸	九、八一	〇、六七	〇、二〇
綠橋側	一〇、二五	〇、七五	〇、二一
米澤町	九、三九	〇、八四	〇、二五
本材木町	一一、七六	一、二五	〇、二八
四ッ谷大木戸	七、九六	〇、一八	〇、一四
麴町十三丁目	八、七三	〇、二〇	〇、二三
靖國神社前	八、三六	〇、一九	〇、一五
金杉橋側	七、九六	〇、二五	〇、一八
新船松町	九、一〇	〇、五〇	〇、一七

是れは水道の工事が不完全故段々下流に從ッて水が惡るくあるので、從來の水道の工事は凡て木材故、中の水が外に出るのでなく外の不潔ある水が木のつぎ目から樋の中にはいるからどうしても下流にあるに從ッて水が惡るくあります、例へば神田上水の如き東京の入口即ち關口では水十万分中格魯兒が〇、五六分でありますが其下流の京橋區本材木町に到ると一、二五分即ち倍量になります是外部より不潔の水が混入してくる證據であります又玉川上水の方は神田上水よりいくらか宜いが、矢張り下流に從ッていくらか增して居ると云ふのは、やはり樋の工合が惡るいから斯う云ふ樣になるのであります、併し水の源は餘程宜い、將來水道工事が出來上がりましたならば神田上水は廢して玉川上水だけにして府下に這入る途中二三ヶ所も漉すやうにあり管も鐵であれば外から汚

ない水が中に入り込むやうなことはない、つまり水道の改良が出來ました後は上水も誠に安心且便利で御座います

從來上水を用ゐて居る方の中には上水は宜いが、夏は生温く冬になると悪るく冷めたい、ソレに反して井戸の水は夏は冷かに冬は温く覺ゆる處から両方ある家でもとかく夏などは井戸の水を飲まるゝ人がある、又全く上水を用ひられぬ處も多くあります依て、井戸の水を試驗するのも亦必要と思ひますから、今清水と汚水とを試驗して御目に懸けます、井戸でも堀貫井戸と云ふのは、地中の岩を掘り貫いて下層から取る水故、概して宜いが、通常の堀井戸は地の中途より涌くので概して悪るい水が多い、「私共の水は夏は氷の如く冷めたくて良い水だ」などゝ頻りに自慢をする方が有りますが、さやうなことで水の良し悪しが解るものではない、一体水の温度と云ふものは概して外の空氣の温度に因るもので御座います、例へは非常に寒くて酌みたる水が凍るほどの時は、空氣の温度が四度以下である、然るに井戸の水は十五度前後である、すなはち今四度の空氣に觸れて居る處の手を、十五度の水の中に入れるから温く感ずるので有ります、畢竟此塲合には外の空氣より水の方が十一二度あたゝかいのである、これに反して夏冷めたく感ずると云ふのもやはり空氣の關係である、夏時は空氣の温度が二十四五度になります、その空氣になれたる手をは九度から十度も低い則ち十四五度の水に觸れますから冷たく感ずるので有ります、ソレで良き井戸の水は大抵攝氏の十五度か十六度位ゐである、若しもソレが外氣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が攝氏十四度であるに水が廿五度であるならば、その井戸は極く惡るいさし水のする井戸である、ソレと同じで冬季外の空氣と同じやうに水が冷たくあればソレは極く惡るい水である先づ井戸の水は寒暖計で計つて空氣の溫度に關係なく始終一定の溫度即ち十五度前後に居るのは良い水といつて宜い、地の中途から水の出る所謂普通の淺き堀井戸と云ふものは餘程危險であります、何せなれは土の層をこして水が集まるのですからいろ〳〵の不潔なる水が來ることがあります、例えば警察で便所の事などをやかましく言ひますが、若しも不完全の便所が井戸に近きところに有ますと、不潔の物が雨水と共に浸み込んで、つまり聚まる處は井戸、ソレから又溝渠が有ると、溝渠から浸み込んだ水は皆井戸に落ちます眞中の空所の出來た處

に聚まる水を良いと思つて居ると大間違ひになります、若しも近所の土地が不潔であると從ッて水も汚ない、ソレ故に水の良惡を知らむとするには井戸の周圍の土地の清潔か否かを略るのが肝要で御座います、併ながら此水の良し惡しを明瞭にするのは試藥で一々見別けなければ解りませぬ、若しもいまだ良きも惡しきも解らぬ水を飮まなければならない場合には、一度沸騰した後に召上がれば危險ある事は無からうと思ひます、各々御宅で始終御遣ひになる水などは、一應試驗をしてその良否を豫め御承知になッて居られなければ實に危險で御座います、時々多くの流行病などの有りますのは種々原因も有りますす樣ですが、水より來たることも亦隨分多い、水質の惡しき處にはどうしても流行病の傳染することが烈しい、府下では

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本所深川が非常に水が惡るいのでございます、私は二十一年から三十一年迄丁度十一年間に衛生試驗所に願ひ出ました水を統計して見ましたが、どうも本所深川の水は特別に惡るいので有ります、本所區の水は三十二種來ましたその中水質の良きものは十三だけで、あとの十九は皆惡るいので有ります、深川は十九種の中良きものは一ッにして十八は惡るい、之を百分算にすると、百の中九十五惡るくして僅かに五ッ良いので有ります、一躰に水の良いのは小石川麻布赤坂次いで本鄉牛込などが宜い、下谷區なども元より御承知の通り水は惡るいのですが、併し本所深川より惡るいと云ふことはない、下谷淺草神田本所深川と云ふ樣な順序になッて居ります、芝四谷の邊も水は宜い、山の手の方の水は槪して宜しいので御座います、水の良し惡しは試藥を以て試驗をしなければ解りませぬから是れから此二種の水（卓上に於かれたる二瓶の水を指して）に就て試驗をして御目に懸けます。

此二壜の水は御覽の通り一は透明、一は汚濁を呈して居ります、先づ槪して濁りたる水は不良なものであります、併し稀れには一見透明にしてその質惡しく、濁ッて居ッても思ひの外良いのが有ります、過日も日本銀行構內に在る井戸で古來「黃金水」と稱して非常に善良の水であると申して居るが、果して良い水であるか否かといッて或人より檢查を賴まれました、黃金水とは如何にも名が仰山であるから余程良い水であらうと思ッて試驗をしました處が、どうも安謨尼亞の多い非常に惡るい水で有りました、その事を申して遣りま

した處が「イヤ決してそう云ふ事はない筈である、以前より深き井戸であるが實に何尺とか堀下げたので昔から有名の水であるから、さう惡るいと云ふ筈はないと」云ふので早速井戸換をして再びその水をよこしましたが、私は此水が黄金水だか銀水だか知らむが試藥を以て驗したる結果どうしても水質は惡るいと云ふとを申して遣りました處が、今度よこしましたのは水道の水であッた、ソレは少し濁ッて居ッたが別段不良と云ふ程のとは有りませぬので、之を漉して飲みさへすれば宜しいと申して遣りました古來徒據るところなく言ひはやして居る有名の水は信を措くことは出來ませぬ、水の中に含める有害物は亞硝酸、有機物、安謨尼亞の三種で有ります、亞硝酸は動植物の腐敗より生じ、安謨尼亞は主に便所或は下水等より來ます、又溝渠の不潔なる水が漏れましたり、或は井戸側のくされなどが這入ると有機物が生ずるので有ります、是れ等の物も極く〱僅かの量ならば井戸水としては已むを得ませぬから許して置きますが併し安謨尼亞は痕跡だも無い方が宜しいがそれとても極めて僅かの量なれば、茲て召上がれば敢へて害にもなりますまい、今此二種の水に、安謨尼亞には非常に鋭敏なる「子スレル」氏の試藥を投じます、而して安謨尼亞を含むことが少なければ黄色、多ければ褐色を呈します

（二種とも試驗の結果飲料にならぬほどの安謨尼亞を含むことを證明せられたり）

是れが若し蒸溜水であればかやうに黄色を呈することはないので有ります、（蒸溜水に安謨尼亞を注げば褐色に變せざるとを示さる） 則ち蒸溜水

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

水の話

には少しも此安謨尼亞を含むことはないのです、過日も上野邊で非常に澤山の金を費して堀貫井戸をこしらへましたさうで、二度程此方へその水の試驗を依頼して來ましたが、安謨尼亞の量が多くて折角多分の費用をかけた甲斐もなく、とう〳〵其井戸の水は飲料に用ひることは出來ぬ樣な結果を得ました、亞硝酸は多くは動植物の腐敗から來る、水の中に亞硝酸の有無を調べますには硫酸と云ふ強い藥を三四滴たらし沃度澱粉液と申す試藥を少し入るれば、もし水中に亞硝酸あるときは忽ちにして藍色を呈します（實驗して示さる）有機物を撿するのは面倒で御座いますから試驗は致しませぬが、申す迄もなく有機物が澤山あつては不可ませぬ、其外水の中に格魯兒の量が多くっては不可ないので御座います格魯兒の量の多いのはやはり不潔の徵候である、是等の含有物の有る水は勿論飲料にはならない、故に水は大切なもので、皆樣方も能く御注意をなさらなければならんのであるが、とかく水に重きを置かれない傾きあるやうてすが本來云ふと水は一日も缺くことの出來ないもの故余程注意をせられねば危險でございます、上水の工事が出來上がつて各戸に敷くやうになれは井戸水は從つて飲むものが少なくなりますから此心配は減します

御話はかはりますが鑛泉などには鐵泉、食鹽泉、炭酸泉、硫黄泉等が有りまして、皆ソレ〳〵に由つて試驗の方法が違ひます、是等の鑛泉も試驗を願ひ出でますと詳細に分析して此中には鹽分又は鐵分が若干炭酸曹達がなにほと含んで居る、而して此鑛泉は何の鑛泉であると云ふことを調べ、して

見ればこれは皮膚病或は胃病に効顕が有ると云ふ樣なことも定められるものであります、又鐵を含んで居る、水は極くうすめて飲めば貧血性の人には大に効が有るのでございます、鑛泉などに至りますと、試驗も餘程面倒で御座います、飲料水は飲料になるかならぬかの大躰を見るだけで試驗の手數も少く御座います、只今御目に懸けた試驗は啻試驗のあらましを示したのであります。水道の水にも時として安謨尼亞を含むことが有ります、ソレは六七月の比になりますと、肥料を施たる田を通りたる水が上水中に流れ入るからで有ります　バクテリヤは水一立方センチメートルに三百個だけは構はぬ、又有害のバクテリヤたりとも能く沸騰すれば多くは死滅しますから敢て害は無かろうと思ひます、勿論安謨尼亞亞硝酸等も飲むと直ちに害が有ると云ふのではない、只斯う云ふ不潔な水を永く飲んで居ると、遂には身体に害を及ぼします、直接に此水が害をなさぬまでも塵積ッて山と成るの諺の如く少しのことでも始終となれば其害は甚だしく、或は流行病の誘引となるとか或は之が遠因となッて胃弱を起す等のことがあッてつまり流行病にも罹り易くなる、ソレ故に少しにても疑ひのある水は一旦沸騰して然る後又用ひになるのが宜しう御座ます。

尚は有機物の試驗も御目にかけ樣と思ひましたが大分時刻が遅くなりましたから他日好き機會があッたら其時に御話致します、又若し飲料水の試驗を當所へ御依賴に成りたき御方がありましたら麥酒壜二本に木栓の新らしき栓をして御持になれば宜しい、而して一種類の試驗料が三十錢先これを

現金でおく登記印紙にて御納めになれば宜しいので御座います。

官令

○文部省令第二十號

學校傳染病豫防及消毒方法を定むること左の如し

明治三十一年九月廿八日

文部大臣 尾崎行雄

學校傳染病豫防及消毒方法

其一 豫防方法

第一條 學校に於て特に豫防すべき傳染病の種類左の如し

第一類

甲 痘瘡及假痘 實布垤利亞 猩紅熱 發疹窒扶斯

乙 百日咳 麻疹 流行性感冒 流行性耳下腺炎 風疹 水痘 肺結核 癩病

第二類

赤痢 虎列剌 腸窒扶斯

第三類

傳染性皮膚病 傳染性眼炎

第二條 第一條第一類甲又は第二類の傳染病に罹りたる職員生徒等は昇校することを得ず

前項の職員生徒等其傳染病治癒したる後昇校せんとするときは先づ全身浴を行ひて衣服を更め且つ醫師に於て傳染の虞なきことを證明することを要す

第三條 第一條第一類乙又は第三類の傳染病に罹りたる職員生徒等は其病況に依り醫師に於て適當の處置を施し傳染の虞なきことを證明したるものにあらざれば昇校することを得ず

第四條 職員生徒等にして家族又は同居人中に第一條第一類甲又は第二類の傳染病に罹りたる者あるときは學校内に傳染病發生したる場合に於て其患者屍體又は病毒に汚染し若くは汚染の疑ある物件に接したるときは醫師に於て適當の處置を施し傳染の虞なきことを證明したる後にあらざれば昇校することを得ず

第五條 教員舍監等學校内に於て第一條の傳染病若くは其疑ある者を發見したるときは直に之を當該學校長に申告すべし學校長は醫師をして診斷せしめ相當の處置をなすべし

第六條 學校に於て第一條の傳染病發生したるときは其病況に依り必要と認むるときは全校若くは其一部を閉鎖すべし

第七條 學校所在地若くは其近傍に於て第一條第一類甲又は第二類の傳染病發生したるときは明治三十年文部省訓令第一號に從ひ充分の清潔方法を施行すべし但第一條第二類の傳染病發生したるときは校舍内に於て使用する飲料水は煮沸したるものを用ふべし

第八條 生徒通學區域内に於に第一條第一類甲又は第二類の傳染

病發生し其病況に依り必要と認むるときは其局部より通學する生徒の昇校を停止することを得此場合に於ては當該學校長より二十四時間以内に其旨を管理者に届出つべし

第九條　傳染病の爲に閉鎖したる學舍若くは其舍室は再び之を使用するに先ち明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法の各項を施行すべし

其二　消毒方法

第十條　學校に於て第一條第一類又は第二類の傳染病發生したるときは其屍体排泄物又は病毒に汚染し若くは汚染の疑ある物件に對し左の區別に依り消毒方法を施行すべし但第一條第三類の傳染病發生し其病況により必用と認むるときは適宜本條の消毒方法を應用すべし

一　第一條第一類及第二類の傳染病患者の屍體、第類一の傳染病患者の用ひたる唾壺第二類の傳染病患者の上りたる圊房其他陰壁、牀、疊、建具、寢臺、器具等は石炭酸水を以て消毒すべし

二　第一條第二類の傳染病患者の吐瀉物其他の排泄物は生石灰又は木灰汁を以て消毒し強亞爾加里性反應を呈するに至るべし

三　食器、被服、寢具等は煮沸又は蒸氣消毒にすべし

四　消毒困難にして廉價なるものは之を燒却すべし

五　前各項の消毒に適せざるものは之を刷掃し數日間日光に曝すべし

第十一條　消毒に供する藥劑竝其應用は左の如し

一　石炭酸水(二十倍)(結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十四分を攪拌溶解したるもの)

本品は屍體、吐瀉物其他の排泄物、器具、居室、手足等の消毒に用ふ又衣類等を消毒するには鹽酸を加へざるものを用ふべし

二　生石灰末(生石灰に少量の水を灑き崩壞せしめたるもの但用に臨みて之を製すべし)

本品を以て吐瀉物其他排泄物を消毒するには其分量の五十分の一を用ふべし又溝渠、芥溜、牀下等を消毒するに用ふ

石灰乳(十倍)(生石灰一分に水九分を攪拌混和したるもの)

本品の應用は生石灰末に同じく吐瀉物、排泄物等には其五分の一を用ふ

木灰は生石灰を得ること能はざる場合に於て虎列剌病患者の吐瀉物、赤痢病患者、腸窒扶斯患者の排泄物の消毒に用ふることを得其用量は吐瀉物排泄物の五分の一とす灰汁とし て使用するには木灰一分に水四分を加へ之を煮沸して製すべし其用量は吐瀉物排泄物の同容量とす但石炭灰、藁灰は木灰と同一の效なしとす

三　格魯兒石灰水(二十倍)(格魯兒石灰五分に水九十五分を攪拌混和せるもの)

格魯兒石灰水の應用竝用毒は石灰乳に同じ但用に臨みて製すべし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第十二條 此省令は幼稚園に適用す

附則

衛生叢談

⊖非醫士療法につきての注意

在大學婦人科 雖愚生

多少醫學に心得ある人又は看病學を修めたる人と雖凡て醫士にあらざる者は患者を取扱ふ中醫士のなすべき領分迄立ち入るは誠に危きことにして却て諺に云ふ毛を吹き創を求むるが如きことあるものあり、たとへば熱病の如きは其初めにては醫士と雖も診斷しがたきものにて熱の上下及び其他の症候により始めて診斷をなし相當の治療をなすものなり然るに非醫士は熱あれば下熱劑を與ふるを宜しと心得「アンピリン」又は「アンチヘブリン」或は「ドーフル氏散」を内服す斯くの如き藥用により多少熱度は下るとあるも之が爲に病氣に持前なる熱度上下の工合を變せしめ病症の診斷を困難ならしむること多し風邪の如き病氣は多少の熱ありと雖二三日の間外氣に觸れざる樣注意し病床の内に安臥すれば下熱劑を用ひざるも自然に輕快するものにして決して後悔をなすが如きとなし又「チフス」肺炎「インフルエンザ」又は肋膜炎の如き熱病なれば病氣の始めに下熱劑を内服したりとて決して頓挫して全快するものにあらず下熱藥の効力過ぎ去る時は又元の如く熱度高まりしかのみならず病氣の成行に害をなすものなり又賣藥は非醫士と雖も隨意に買ひ求め内用し得る者故内務省にて一々其成分を檢査し如何なる誤り

たる用法をなすも人躰に害とならざるが如き効力の少なき者のみを發賣せしむるが故に其効は誠に少なきものなり、下等社會の人又は寒村僻地の田舍にて醫士の診斷治療を受けがたき者は止むを得ずと雖醫士の診察を受けらるゝ中等以上の人にて賣藥を求むるは愚の至りなり

又頭痛、胸痛、腹痛、下利、惡寒、發熱或は全身の倦怠と云ふが如きことは何れの病症にも多少はあるものなれば斯の如き症候にて彼は何病なり是は何症なりと判定し得ざるものなり然るに間々素人の考にて惡寒、發熱する故何病なり又腹痛、下痢をなす故何々の病氣なりと定め只賣藥を頼みとして病を治せんと務むる人あり之又戒むべきことにて若し其病症重ければ賣藥の效力なく種々困難の末醫士の治療を乞ふ頃には已に病氣を重らせ治療しがたきことは世間に少からぬことにて早く醫士の治療を受くれば速に全治すべかりしをと後悔するも詮なきことなり

故に素人は只己れの預分を守り病氣に罹れるときは直に醫士の診斷を受けて醫士の命令通りに從ひ決して素人療法をなすべからず

●醫士の診察を受くる時の心得

凡て病症を定むるには其病氣となれる原因を取調ぶること最も必用なり故に診察の時醫士は種々なることを問ひ患者の泌しをることをも問ひ窮むるものなりたとへば相當の教育を受け衛生の心得ある人に不消化物を食せしことなきかを問ひ又淋病に罹れりや、梅毒を感染し曾て陰部に瘡を生せしことなきか或は貴婦人令孃に月經のことを詳細に問ひ又必要ある場合には閨房内の秘密に迄問ひ及ぼす

ことあり斯樣なる問に對して患者は少も秘することなく實事を答へざるべからず然らざるときは診斷は明ならず或は誤診をなすこともあるべし且つ醫士は各々自身の職業の德義あるものなるか故に患者の秘術を他人に漏すことなし若し人の陰秘を漏すが如きことあるときは醫士は其患者一族の信用を失ひ然のみならず刑法にて罰せらるゝことあるなり

醫士の診察を受くる前にはよく己れの病症の初めより其成行きを考へをき可成順序よく簡短に告くるを宜しとす又既往症と云ひ患者が生來罹りたる病氣のこと及ひ患者の血統中又は同居人或は近傍に傳染病たとへば赤痢「コレラ」「チフス」「チフテリヤ」の如き病に悩みをる者ありしか又卒中、結核或は癌腫などの遺傳なきかをも篤と考へをき醫士の問にまかせ明瞭に答の出來得る樣注意しをくべし

◉挫傷

挫傷は世間に間々ある外傷の一種にして物体に衝き當り又は杖棒の類にて打たれ又は重量あるものが落ち來りて身体に當りたるときにをこるものなり

挫傷は通常は皮膚破ぶれ出血することなきも皮下にある細き血管破れて皮膚の内に出血し暫くにして其部腫れあがり色は變じて赤色となる即ち俗に云ふ「クロジニ」の始めにして赤色となれる處は追々藍色、褐色となり遂に黄色となる之れ其血色素が漸次に變化するが爲なり、斯くの時挫傷は通常治療を要することなく自然に全治するものなり然し甚だしく腫脹し疼痛强ければ其部を氷にて冷す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

べし
挫傷の度强くして内部の器關たとへば脳脊髓、肝臟等に障害をなすときは恐るべき病症を發し眩暈、嘔吐、又は失神をなすに至る腹部のつよき挫傷は妊婦なれば流産をなし或は腹中にあり貴重なる器關破損し腹内に出血し直に死を招くことあり、故に强き挫傷をなしたるときは先つ第一に人を醫士に走らせ診察を求めをき負傷者若し失神し頭色蒼白となり脈搏細くなるときは横臥せしめ挫傷を受けたる處を冷して醫士の來るを待つべし、又可成負傷者の身体を動搖せざる樣注意すべし、

◉創　傷

創傷とは皮肉破れて出血するものにて切創、刺創、銃創、挫創等の別あり、創傷の人体に及ぼす障害は創の大さ深さ及ひ傷を受けたる部位により異なるものあり
頭部、胸部、腹部の創傷は凡て危險なるものとす、切創とは創の長さは大なるも多くは淺きもの故其部位前記の如き場處にあらざれば危險なること少なし之に反して刺創に創口は割合に小なるも深くして決して等閑になすべからず銃創に至りては四肢の外の場外なるときは多く生命を失ふに至るものあり、刺創にては刃物の尖端創内に殘り長く障害をなすものなり故に刺傷のときは誤りてなしたると故意になしたるとを問はず刃物の尖端を改むるを宜しとす蒸氣機關、等にて受けたる創は劇しくして皮膚、筋骨、破裂し又は壓し潰され直に死に到るものあり之を以て蒸氣器械に近つく人は成るべく洋服の如き身輕なる衣服を着すべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し然らざれば衣服の一端器械に觸れ思はざる大傷を招くとあり、又外傷を蒙れるときの自分の位置即ち如何樣なる工合にて傷を受けたるかを充分醫士に告ぐるときは治療上の參考となるものなり
創傷には有毒創と無毒創との別あり無毒創は凡て創面に觸るゝ器械布片等を充分に消毒し然る后手術をなしたる創を云ふ斯の如き創は其後充分に消毒に注意すれば膿むとなくして全治するものなり
有毒創とは土砂汚垢の附きたる刄物にて受けたるか又は前記の如く創面に觸るゝ凡ての物躰充分消毒をへざる創傷を云ふ故に外科治療の爲に作りたる創の外凡ての創傷は皆有毒傷となすなり有毒創は多くは化膿し又發熱つなく創傷丹毒、病院脫疽又は膿毒症の如き危險ある病を併せ發するものなり
創傷を蒙れるとき素人は之を如何に處置すべきかと云第一創傷を受けたる人に害を與へざる樣注意すべし創傷に不潔の危險なるとは前に述べたるが如し故に綿散糸、絆創膏、海綿等の不潔なるものを用ゆべからず又不潔なる指にて創面に觸るとを戒むべし、又傷口又其近傍を洗滌するには井水、河水等を用ゆるとなり一旦煮沸せる冷水を用ゆるを宜しとす、最も宜しきは余り強からざる石炭酸水にて充分に創面及び其近傍を洗ふにあり然る后同樣なる石炭酸水を浸したる布片を創面におき繃帶をなし醫士の來るを待つべし

◉出血につきて

人躰は何れの部分を問はず血液循環しをるものなるを以て皮膚筋骨に外傷を受るときは血管破れて多少出血するものなり輕少なる外傷あれば一時は

少しく出血することあるも漸くにして止血するものなり之血管の破れたる所より出でたる血液凝固して血管の創口を閉ずる爲なり若し氷又は冷水にて創口を冷すときは血管收縮して細くなり又血液の凝固を早むるが故に易く止血するものなり

外傷を蒙りたる塲處惡しきか又は創傷大なるときは相當の手當をなさゞれば自然には止血しがたきものとす大出血には靜脈出血と動脈出血との二種あり靜脈出血とは靜脈と稱する種類の血管破れたるが爲に出血するものにして其血液の色は鮮ならずして暗紅色をなし間斷なく同じ早さにて流出するものなり之に反して動脈出血は動脈が創を受けたるものにて血液の色は鮮なる紅色をなし其流出する狀躰は恰もぽんぷにて水を注射するが如し、動脈出血は通常靜脈出血より危險なるものとす、

出血は常に不意に起るものにて速に救助をなさゝれば直に死に到又は大貧血の爲長く病床に臥せざるべからず、女子は男子に比して出血に堪ゆるの体力強し然れども血液全量の三分の一程も出血するときは其生命甚だ危ふし小兒は元來体力弱き者なるが故に少量の出血の爲命を致すことあり

素人にて行ひ得る止血法は外傷を來せば直に清潔なる布片たとへば手拭の如きものを疊み重ねて創口に置き然る後つよく壓迫すべし傷を受ける塲處が手足なれば其上を長き綳帶の如き布片にて纏絡して固く結び成るべく四肢を高く擧げ血液の流出緩徐となる樣注意すべし、出血未だ止らずして動脈出血なるときは胸部に近き處を細き帶又は紐にて固く束ぬるを宜しとす、たとへば腕に外傷を

蓋り強く動脈出血をなせば肩に近き處を束ぬべし若し又靜脈出血なれば手に近き方を束ねざるべからず之れ動脈血は胸即心臟より指先きに向て流れ靜脈血は指先きより心臟に返る血液なるが故なり、

以上の如き壓定にて止血するは只救急の療法にして長時斯くの如き方法をなせば紐又は繃帶を施したる處より末梢即ち指に近き處の血液の流通を害して浮腫を來し遂には壞疽となることあり

◉骨折

骨折に二種あり單骨折及び複骨折とす、單骨折とは只骨のみ損傷して皮膚に創を生せざるを云ふ複骨折とは折斷したる骨の一片により內部より筋肉皮膚を突き破りたる者又は 銃丸等により皮肉、骨と共に損傷したるものを云ふ、複骨折は單骨折より危險多きものなり何となれば前條に記したるが如く皮肉の損傷を受ると共に大なる血管破れ血液体外に流出し又有毒なる塵埃創口より体內に入り危險なる症狀をなすことあるが故なり

骨折をなしたる負傷者を醫師又は或る場所に送るとき意を用ふべきことあり即ち負傷者の衣服を脫せしむる際又は之を釣臺、戶板等に移すに當り骨折せる部が自個の重さにより又は物に突き當り强く屈曲して單骨折のもの變して複骨折となることあり故に若し醫士の現場にあらざる處にて骨折をなし之を一定の場處に運搬せざるべからざるときは負傷したる場處は道路、田畑、山林を問はず先づ負傷者を其場處に置き直に近邊にて副木の用をなす物品を求むべし副木とは曲りがたき棒の如きものにて板片、杖、傘堅く巻きたる新聞紙又は樹

枝等を用ふ其用法は先つ何なりとも副木となすべきものを布片にて軟く巻き之を骨折したる手又は足に副へ次に長き布片を以て副木と四肢とを同時に纏絡すべし然る後用意したる戸枚又は釣臺に移し靜に醫士の處へ送るべし

◉窒息（イキノトマルコト）

窒息とは密閉したる室内にて空氣の流通なき處に在れば人體の生活に必要欠くべからざる新らしき空氣は漸く少なくなり一度吸入られたる酸素を含まず却て有毒なる性分多き空氣を吸入するが爲腦神經の働き止るが爲に生ずるものにて初め頭痛、嘔吐、眩暈をなし呼吸は淺くして其數多くなり遂に失神して速に救助せざるときは死に到るものなり又古き井戸に入り又は出火の際火烟に取り巻かれたるときにも同樣なる病狀をなすものなり

西洋にては窓、入口等の戸障子は皆「グラス」又は板を用ゆるが故日本流の家屋に比せは空氣の流通惡しく又瓦斯らんぷを用ゆるが故に誤て瓦斯口管の「ネジ」を充分に閉ずることなくして寢につくときは瓦斯室内に充滿して睡眠中に窒息して死を致すとありと云ふ、

窒息して失神せるものは速に新鮮なる空氣を吸入せしむるを務むべし然れとも此際救助者も充分意を用ひ自身に窒息せざる樣用意すべし、先つ窒息者のある室の戸又は窓を室外より開くべし若し室外より開き難きときは水を浸したる布片を口に當て其室内に入り手早く窓を開き室外へ頭を出して一度新しき空氣を吸入し然る后失神者を室外に運び出すべし若し燈火用の瓦斯の爲窒息したるときは燭を携へて室内に入るべからず瓦斯

と空氣と混じたるものは爆發するを以てなり、廢井又は坑中に入りて窒息するものあり有毒なる空氣又は瓦斯は重くして坑底に沈みをるものあり故に之を驅逐するにあらざる間は救助者は坑内に入るべからず石炭水を多量に坑中に注ぎ又は藁又は紙の如きものに火を點じて坑中に投げ下すときは空氣の流通起りて有毒なる瓦斯は新らしき空氣と混合して毒性薄くなるものあり又傘を開きて坑中に倒に吊るし屢々上下するも空氣の流通を助くるものなり、此に於て救助者は冷水を浸したる布片を以て口鼻を覆ひ己の身体に太き繩を纏ひ他に二條の一條は細く他の一條は太くして窒息者を縛するに適當なるものを持ちて坑内に入るべし細き繩は救助者自身が窒息せんとするときは之を引くときは坑外にある人直に救助者を引き上ぐる爲に用ふる暗號紐あり、以上の用意をなして坑中に入り直に窒息せる人を太き繩にて縛り靜に坑外へ引き上げ醫士の處置にまかすべし、

◉失神者

失神とは腦神經の作用一時癈止するものにて凡ての知覺即ち耳目口鼻の働きなく疼痛も感ずることなく心臟、呼吸の外凡ての生躰の作用止り殆んど死亡と同樣なるものなり失神を來す源因は種々あり今次に之を列記せば

(一)脊髓腦の外傷にてはよく頭部を打ちたるとき又は落馬等にて劇しく背部に外傷を受けたるとき

(二)腦神經の病たとへば卒中、癲癇

(三)阿片「モルヒ子」「アルコホル」「クロロホルム」の中毒

(四)非常なる驚愕、疼痛、又は大出血

以上種々の原因により來る失神の際素人の施すべき療法は次の如し

(一)原因は何なるや驚愕によるか又内部の病氣によるや又は外傷の爲かを取調ぶべし、

(二)失神者は初め如何樣なる工合にて失神となれるや又失神の後に患者を見出したるときは患者の身体の位置、又は週圍近傍の有樣を熟知しおくべし之れ屢々裁判上に關係するとあるが故なり

(三)又失神者の吸氣は如何なる臭氣を有するか全く酒の臭氣なるか又他の臭氣を帶びをるかを注意すべし酒の臭氣なれば之れ只のアルコホル中毒なり「クロヽホルム」の中毒にも一種の酒に類したるも少しく甘き臭氣をなすものなり

(四)無用なる傍看人を立ち去らしめ成るべく新しき空氣を呼吸せしむるを務むべし、

(五)頸卷「シャツ」又は帶をくつろげ失神者の呼吸を防げざる樣注意すべし

(六)失神者の顏面蒼白なれば頭部を低くすべし若し赤色をなせば高き枕を以て頭部を高くすべし又嘔吐をなさんとせば直に頭部を側方に向かしむべし然るときは吐物は容易く口外に出で肺中に吸入するの恐なし

(七)失神して人事を省みざる者若し癲癇の如きとを起すとき即ち手足を動じ全身痙攣し泡沫を吹き出すが如き余り强力を用ひて手足を壓すべからず只失神者が痙攣の爲顏面又は手足が近傍の堅き物に觸れ外傷をなさ

ゐる樣注意し齒間に「コロップ」の栓子、杉箸の如きものを差し入れ舌の咬傷を防ぐべし此際手拭の如きものを齒間に入之が爲に呼吸を止むることあり之又意を用ゆべきことなり

●人身の構造及官能

○皮膚は人躰の全部を包むものにして爪毛髮を具ふ又脂肪腺、汗腺と名づくるものあり、脂肪腺よりは間斷なく脂肪を出し皮膚を滑らかにするものあり、汗腺とは汗を作る處にして又皮膚の乾燥を防ぎ併て躰内に不用なる水分を排出するものなり又皮膚中には細き筋肉ありて寒冷なる外氣に逢へば鵞膚となり冷氣の体中に入るを防ぐものあり、

○皮下脂肪とは皮膚と筋肉との間には老若男女を問はず多少の脂肪あるものにて小兒及び女子には最も多しとす老人となれば脂肪少なくなるが故に皮膚に數多の皺を出ずるものあり

○粘膜とは皮膚即ち表皮と異り其色紅にして表皮より弱きものなり此膜よりは常に粘液を分泌するものなり眼瞼の内面、鼻孔の内面、口、舌、喉頭、飲道、胃、腸、食道の内面にあるものなり、尿道及び膀胱の内面も又粘膜あり

○腺とは一種の機關にて血液の内より性分をとり一定の液体を作る處にて此液は腺により其性分異あるも生治上に欠くべからざる働きをなすものなり

自身中重ある腺は次の如し、

肝臟は腹内にありて胆汁と名づくる液を作る此液は腸内に流れ込み食物を消化するの働きあ

り、
唾腺とは口中の唾液を作る處にて口中にあり之又食物消化に欠くべからざるものなりとす、
膵臓も又肝臓の如く腹中にあり一種の消化に必要ある液を作り腸内に注ぐものなり、
腎臓は腸内の下方の兩側にあり其形は「ソラ豆」の如く血中の不用なる性分をとり尿を作るものなり此尿は輸尿管と云ふ管中を流れて膀胱に入り暫時此處に止り一定の量となれば陰部より体外に出ずるものなり、

◉身体の勞働による食量

K. M.

人民の生計によりて大に身体の勞佚動靜あり故に其狀態に随ひて要給する所の食量も亦自ら差異あるを得さるものあり

一日の食量	筋を養ふ物質瓦量	脂肪瓦量	澱粉及砂糖瓦量	含窒素物	澱粉として計算したる含炭素物
必要の量	二、〇	〇、五	一二、〇	二、〇	一三、三
安佚なる者	二、五	一、〇	一二、〇	二、五	一四、五
適宜の運動をなす者	四、二	一、八	一八、七	四、二	二三、二
過度の勞役をなす者	五、五	二、五	二〇、〇	五、五	二六、三
劇甚なる力役をなす者	六、五	二、五	二〇、〇	六、五	二六、三

リービグ氏の説に從へはババリアンの鋸匠に於ては毎月曜日の朝食後其主宰者より「ドリッピング」三磅と四分肉七磅ト八分麵包四磅と五分の食料を受取りて山林中の工場に行き土曜日の晩食前に歸りて翌日の休憩をなし再び山林に行くを常とす故に毎月曜日携ふる所の食料は全五日間（該國の習慣一日二食とす）の分量にして其營養分の日々量は乾燥含窒素物の四瓦と三一（窒素の二百九十氏に同し）澱粉に改算したる含炭素物の四十九瓦

と九一（炭素の九千七百四十四氏に同し）に當る露西亞の農民の食物を年々精密に計算したる平均の一日量は乾燥したる含窒素物五兮と六七（窒素三百八十一氏）澱粉に改算したる含炭素物四十二兮と四一（炭素八千二百四十六氏）を保つ割合なり又支那の力役者に於て其主宰者より日々受取る所の食量は乾燥含窒素物四兮と六六（窒素三百十三氏）と澱粉に改算したる含炭素物三十六兮と三二（炭素七千六十二氏）とを含むの割合なり

右の調査に就き其中數を取るに日々の食物は其運動の模樣に應し即ち怠惰の時通常運動をなしたる時及ひ過度の勞動をなしたる時等に於て少なくとも必す要すべき營養性分の割合量は左表の如し

日々ノ食餌	含窒素物 兮量	含炭素物 兮量	含有 炭素 氏量	含有 窒素 氏量
怠惰なる時の量	二、六七	一九、六一	三、八一六	一八〇
通常の勞動なす時の量	四、五六	二九、二四	五、六八八	三〇七
非常の勞動なす時の量	五、八一	三四、九七	六、八二三	三九一

（第二）呼吸蒸發氣及ひ屎尿の分泌により炭窒二素の此中より排泄して身體の缺損となる分量を計算するに健康人の肺臟より日々炭酸となりて排出する炭素の割合は六兮乃至十三兮半の差異あるとを撿出せり此の差異は温度勞役等に歸するものとす

ドクトル、エドワルドスミス氏の說く所の量は左の如し

安佚なる時の一日量	七兮八五
通宜の勇作をなしたる時の一日量	九兮一一
著しき勞役をなしたる時の一日量	十二兮九

而して同氏の考案によれは非常の體量百五十磅（我十八貫目）なる健康人は日々其肺臟より炭素八兮五七を呼出す之れに皮膚及び糞屎より排出する所の量を加ふれは毎日九兮六（即ち四千二氏より

少なからず即ち體量の毎磅に付二十八瓦の比例に當ると云ふ

小便中尿素等となりて排泄する所の窒素の分量は食物と運動とによりて差異あるものありドクトル、パークス氏曾て二人の兵卒に於て試驗せしとあり其試法は之れに通常の食物を同樣に與へて運動をなさしめざりしに尿中の窒素分は體の重量毎磅に付二瓦〇三の割合を排出せり（毎百五十磅に付三百〇四瓦となる）又窒素を含まざる食物を與へて運動を許さゞりしに尿中の窒素分毎磅に付〇九五瓦を排出せり（毎五十磅に付百四十瓦となる）又同上窒素を含まざる食物を與へ過度の運動をなさしめたるに毎磅に付二瓦四二を排出せり（毎百五十磅に付三百六十四瓦となる）此他諸家の試驗皆大同小異にして其食物の善惡と運動とにより尿素となりて排出する所の窒素の量に差異を生ずることは毫も疑を容る可らず

上に掲くるか如く呼吸、蒸發氣、糞尿等より分泌排出する所の炭窒二素の量は其人々の用給する所の食物に含有する量と甚た密に一致するものあり故に人體を補給する食物は其營養性分の多少を計り運動の度に應して之れか斟酌をなすは最も緊要なることを知るへし今其詳細を左表に示す

		含窒素物ノ量	含炭素物ノ量	炭素瓦量	窒素瓦量
怠惰なる時に於ては試驗	食餌に因て得る量	二、六七	一九、六四	三、八一六	一八〇
	分泌に因て失ふ量	二、七八	二一、六〇	四、一九九	一八七
	平均量	二、七三	二〇、六〇	四、〇〇五	一八四
勞役する時に於ての試驗	食餌に因て得る量	四、五六	二九、一四	五、六六八	三〇七
	分泌に因て失ふ量	四、三九	二三、六三	四、六六四	二九六
	平均量	四、四八	二六、四四	五、一九一	三〇三

右の表中前の平均量は麵包二磅二丂中より得る所

の營養性分にして後の平均量は大約二磅半より得る所のものとす

●救急箱の裝置　T、T.

凡そ不意の事變に當りては直ちに之れが救急の處置を施さゞるべからず依りては各人常に救急の用意を爲し置くこそ尤も緊要なりとす但し救急箱に收容すべき藥物等は各人の意見によりて相同じからずと云へども大抵左の諸品にて事足るべし

一、石炭酸(三十倍)　五百瓦乃至六百瓦
二、煮沸水　六百瓦
三、綳帶包
消毒せし布片中に殺菌し得べき昇汞を含有せしめ油紙に包み尙は三角綳帶にて之を蔽ひ安全針を以て刺置き二三個を入る
四、三十倍水楊酸軟膏　五〇、〇
五、明礬　五、〇
六、ブランデー酒　一〇〇、〇
七、卷軸綳帶　二三本
八、綿花（通常、脱脂）
九、絆創膏　一尺
十、「ブラシ」　一個
十一、木綿片　二尺
十二、鋏　一個
十三、鑷子　一個
十四、石鹼　一個
十五、「スポイト」　一個

●雞卵の蛋白と蛋黄

雞卵は蛋白質、脂肪、含水炭素、鹽類、水分、等よりなりたる滋養食物なり俗間蛋白と蛋黄とは何れが滋養尤も多きやを論ずる人あれとも蛋白蛋黄共に差違のあるものにあらず只化學分拆上卵黄は多量の石灰鹽、含水炭素、脂肪等を含むものなれば尙發育する小兒に宜しく蛋白は發育完了し

たる大人に與ふるを最も適當なりとす但し卵黄の臭氣を厭ひ強いて食するときは嘔吐を發する人あどには全卵を混和して食せしむるか又は蛋白のみを食さしむるかに爲すべし但し蛋白を好みて蛋黄の臭氣を厭ふものは又同様食用し易き樣になして供するを緊要なりとす今參考の爲め「キヨニツヒ」氏蛋白蛋黄の分析表を示さんに

	蛋白	蛋黄	全卵
水分	八五、七五	五〇、八二	七三、六七
窒素抱合物	一二、六七	一六、二四	一二、五五
脂肪	〇、二五	三一、七五	一二、一一
不含窒素物	…………	〇、一二	〇、五五
灰分	〇、五九	一、〇九	一、一二

右の分析表によるも蛋黄蛋白に於て非常の差異を見ることなし但蛋黄は白味に比し窒素及脂肪の少しく勝るあるを知るべしまた雞卵は調理法の如何になりて消化に難易あることは世人の夙に熟知するところなり假令へは生卵は消化尤も易く通常は食後一時間乃至一時間半内に全く消化するものなり殊に食塩を少しく加へて食するときは一層吸收消化し易しと云ふ半熟湯卵では食後二時間以上三時間にて全く消化し了り煮卵は全く凝固したる者にて消化稍々難く三時乃至五時間を要するのみならず永く胃中に留るが故に消化機能を妨げ爲めに厭ふべき噯氣を發するものあるが故に全く凝固せる卵は多食すべきものにあらざるなり
よく病人などが鷄卵一個は乳若干に當るかと云ふことを問へども卵に大小種々あるか故に一概に斷定を下し難しと云へとも可なり大なる卵は十匁チヤボの卵は八匁クキンの卵は十二匁位なるも今十匁の卵二個は分析上牛肉十匁の滋養と均しく鷄卵

二個は乳一合に當る今一合の牛乳中に含む重なる營養分は大凡蛋白質九ガラム脂肪八ガラム乳糖八ガラムあり今之れ丈の滋養を牛肉より得んとせんに牛肉一斤二十錢として計算比較するに牛肉あれば一錢六厘にて蛋白四十四ガラムを求め得べし即ち掛目にすれは十一匁余に當る又其蛋白質を鷄卵に比すれば中等大の鷄卵二個若くは一個半に同じ之に反して牛乳一合には四錢以上を拂はさるべからず然れとも牛乳は小兒の食物として滋養分の制合其宜しきを得るのみならず又肉類等を用ゐること能はさる病人に用ゐて大効あるは人のよく知る所なり故に能く〱其滋養力の計算を考へ身体營養に留意せらるゝ事緊要なり世間には日々僅かに五勺位の牛乳を用ゐ是れにて營養充分なりと思考するは誤れるも又甚だしされればよく此理を會得し小兒或は患者に非さるものにして之を滋養の目的に用ふるには少量にても功なきものには非ざれども之を以て安んせす即五勺一合に止まらず尚多量に之を用ゐたきものなり。

◉肉類の鑑定

近來本邦人の肉食日を追ふて盛んにして冬季に至れは殊に然りとす就中其大多數を占むるものは牛肉に如くものなかるべし牛肉とてもよく其鮮新なるものを食用するに非ざれば却て腸胃を害し其他の病災に罹ることあるべし肉類販賣をなすものにして往々自巳の利益を圖らんが爲めに甚だしきに至りては病肉馬肉を混じて販賣するものあるの例乏しからず馬肉とても多少滋養なきに非れども瞞着手段を以て之を販賣するに至りては實に惡みて

も餘りありと云ふべし市街に於ては警官の注意周到なるか爲めに違反割合に僅少なるも村落僻地にありては充分に注意を要すべきもの甚だ多しされば肉食するものは宜しく之れが鑑別法に留意せさるべからず

牛肉の最良なるものは其肉强固にして彈力あり柔弱ならず試みに尖刀を以て之を刺すに鮮肉は內外調しき彈力を有して硬軟の別あることなく一日程經過するも外面の乾き居るものあり而して肉の味ひに至りては肋骨の部及び腰肉を以て最上とし頸又は頭部は組織密ならず薄き肋骨は脂肪多し然れとも脂肪は普通の牛にては腰部の內側に最も多しとす總べて鮮肉は鮮紅色を帶びて臭氣を放つことなしと云へとも其色淡赤色にして其質堅牢ならずして淡紅に失するものは病肉なり又た深紫色なるは屠肉に非ずして斃死により血液を含みて乾固せるものか又は急性の熱病等を患ひたるものにして不良なるものは概して其組織軟らかにして容易に引き裂くことを得べし之れ腐敗の初期にして肉色漸く淡白となりて遂には一種不快の異臭を放ち且つ强固なる肉質を保たず尋で綠色を帶ふるに至る之を割くに肉質硬軟の別あり一日も經過するときは外面濕潤し或は液体の侵出するか如きは決して食用に供することを能はさるものあり而して老牛幼肉の別を鑑定せんに老肉は纖維大にして暗色を帶びて粗なれども幼牛の肉は色淡白鮮紅にして幾分か光澤ありて多少濕潤するものあり牛肉と馬肉とは其肉色の狀態能く類似するものなれば牛肉中馬肉少許を混ずるも中々に見分難きものありと雖へとも仔細に注目するときは大いに異なる点を

發見するに至るべし

一牛肉は鮮紅色を帶ぶると雖へども馬肉は暗赤色にして其色鮮やかならず

二馬肉は牛肉に比して其質硬く水を加へて煮沸すれば一種言ふべからざる恰も馬尿に似たる臭氣を放つものなり

三馬肉の脂肪は牛肉に比すれば少くして淡黃色なれども牛肉は脂肪多く其色淡白色なるの差ありとす

四馬肉は攝氏二十一度の溫に於て清澄の油となれども牛肉は攝氏四十三度より乃至四十七度の溫に過されば融解せず

右述ぶるが如く牛肉と馬肉とは其類似すること甚多きが爲めに容易に判別すること困難なれども臭氣と脂肪の色合と脂肪の融解點によりて鑑別することとを得べしされども牛肉中に馬肉を混じたるものに至りては一層撿査の困難を來すものにしてそは下の如く融解度の差異によりて一種判別することを得べしと云ふ今細かに切りたる牛肉少許を鍋の中に入れ少量の水を加へて煮沸し始めて浮び出し泡を手早く取りて尙ほ煮沸すれば油滴の浮び來るものなり玆に於て鍋を火上より取り除き水上に於て冷却するときは七八分時間にして手指は固まると雖へども馬脂存するときは久しく塊まることとなし之れ尤も容易なる判別法なりとす凡そ肉食家の恐るゝは傳染病に罹りし肉及び宿生虫の生存する肉等は尤も恐るべきものなり

●赤痢患者　客十二日中各地方より臨地撿疫局に到達したる赤痢患者は四百二十七人死者百四十四人本年初發よりの總患者七萬三千八百三十一人死者一萬七千〇九十五人なりきと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎傳染病患者東京府外六縣に於ける傳染病

○東京府　去十二日届出腸窒扶斯八人實扶垤利四人合計十二人也

○兵庫縣　本月三日より九日一周間届出腸窒扶斯四十二人死亡九人實布テリア三十四人死亡八人

○山形縣　三日より九日に至る一周間届出窒扶斯五十一人死亡八人實布テリア死亡一人

○山梨縣　本月三日より九日に至扶斯五人實布テリア五人

大日本婦人衛生會記事

◎十月總會　十月一日午後一時より麹町區内山下町華族會館に於て開く席定まるや宮本仲君には諸種の小兒病より延いて乳汁の事に說き及ぼされ氏の考案による牛乳貯藏器を示し演說せられたり次に長井理學博士出演の約ありしが俄かに要事の爲め參會せられざりき當日は總會ありしを以て半年度事務會計報告等は皆掲示して會員に報告し午後四時頃散會せり

○三月以降八月に至る雜誌寄送せられし數

○大日本私立衛生雜誌　六册　大日本私立衛生會
○埼玉衛生雜報　六册　埼玉衛生會
○藥石新報　十八部　藥石新報社
○中外藥報　五册　中外藥報社
○婦人新報　六册　婦人新報社
○日本助產婦新報　十數部　新潟高橋辰五郎君
○越佐教育雜誌　六册　越佐教育會
○通俗衛生　一册　大坂私立衛生會
○三重衛生雜誌　三册　三重私立衛生會
○衛生寶鑰　三册　三河聖會本塲

以上

廣告

◉入會者

◉國井よしを子の紹介に依り

山形縣西村山郡出居村大字吉川

笹島やゑ子

山形市旅籠町五百七十一番地　後藤まき子

●磯田かつ子の紹介に依り

本所區相生町三丁目廿七番地　本間よし子

深川區島田町九番地　鹿島糸子

●牛山竹代子の紹介に依り

栃木縣下野國下野郡塩谷郡塩原村

大字下塩原三十七番地　臼井ます子

●長谷川蝶子の紹介に依り

本郷區西片町十番地ロノ十一號　長谷川きよ子

●西島みね子の紹介に依り

福島縣足立郡本宮町五十二番地　大内はる子

●宇佐美きち子の紹介に依り

日本赤十字社病院内　安岡貞枝子

日本赤十字社病院内　大野縫子

●萩原秋子の紹介に依り　中島とみ子

●渡邊きゑ子の紹介に依り

仝　鱸けい子

仝　野田やす子

仝　星子ひろ子

仝　後藤とら子

仝　尾上けい子

仝　北澤きく子

仝　石井あか子

仝　盤谷ため子

仝　渡邊つさ子

●事務所へ申込に依り

神田區小川町四十番地賀古内　千合茂登子

●改姓

芝區櫻川町十二番地坂井すみ子氏は岸すみ子と改姓す

大日本婦人衛生會會計報告

自明治三十一年三月 至明治三十一年八月 半年度收支決算

現在金高及收入之部

一金七百五十貳圓拾壹錢五厘

内譯

金參百〇八圓五拾錢　銀行預金利子共
金拾圓參拾六錢五厘　前年度繰越金
金拾參圓　寄附金
金七拾四圓八拾錢　懇親會々費
金參百四拾參圓〇五錢　會費集金
金貳圓四拾錢　廣告料

支出之部

一金四百貳拾五圓六拾七錢九厘

内譯

金百四拾八圓五拾六錢五厘　雜誌及諸印刷費
金七拾六圓八拾九錢五厘　懇親會入費
金參圓　香料
金六拾五圓　雜誌編集料
金參拾貳圓　事務員給料
金七圓　速記料
金貳拾九圓五拾五錢　會費雜誌通知集配使手當
金貳拾七圓五拾四錢　郵税料
金五圓七拾五錢　總會雜費
金七圓四拾四錢　筆墨紙料
金五圓六拾九錢　會場費
金拾六圓五拾九錢九厘　諸雜費
金六拾五錢　器具料

收支差引殘

一金參百貳拾六圓四拾參錢六厘

内譯

金參百〇八圓五拾錢　銀行預金
金拾七圓九拾參錢六厘　後期繰越金

現在會員數

總會員數　九百九拾八人

内譯

府下修身會員　二十二人
地方修身會員　七人

府下特別會員 二十四人
地方特別會員 五人
府下贊成員 五十一人
地方贊成員 十六人
府下通常並學生會員 五百六十一人
地方通常並學生會員 百十七人
千葉支會員並贊成員 三十五人
新潟支會員並贊成員 百六十人

◎婦人衛生會員移轉者

麴町區三番町四十五番地へ 市尾はつ子
麻布區綱代町一番地へ 吉澤まさ子
京橋區山城町三番地へ 上原とよ子
牛込區北町十四番地へ 和田垣つな子
麴町區上六番町廿番地へ 足立清子
牛込區津久士前町三十一番地へ 山川藥子
赤坂臺町十四番地へ 大西幾子
小石川區西原町二丁目四十番地井口方へ 大島織兄子

北海道札幌大通西八ノ一札幌美成病院へ 竹中もと子
和歌山小松原通三丁目六番地へ 石井文子
福島縣安達郡本宮町五十二番地へ 大内はる子
豆州熱海温泉宿中玉屋別莊へ 俊野いわ子
廣島縣呉片山田村千〇七番次廿八へ 宇敷かつ子
牛込區砂土原町三丁目十六番地へ 西川ふみ子
大坂西區江戸堀北通四丁目三十九番屋敷へ 中嶋ゑつ子
京都市下京區三條通白川筋東三丁目定法寺町へ 久原ゆき子
麻布區飯倉狸穴町十八番地へ 山崎ふじ子

大日本婦人衛生會

高等化粧料發賣廣告

● 高等化粧水　オイデルミン　一箱三個入　金七十五錢

皮膚を艶美滑澤ならしむる高等の化粧料なれば貴婦人令嬢方の必需品なり

● 改良びん付　コラキン　一本　玉椿　金二十錢

● 改良すき油　メラゼリン　一箱三個入　柳糸香　金一圓五十錢

● 改良香水　ラウリン　一箱三個入　花たちばな　金一圓八十錢

● ふけとり香水

第一剛き毛髮を柔軟ならしめ且汚れを淨め永く清潔の狀を保たしむ

● 改良水油　オイトリキシン　一箱三個入　花かつら　金一圓二十錢

在來の香油の如く髮に粘ばりを生ぜず毛髮の光澤を艶美ならしめ脱落を制止し頭皮の疾患を豫防す

● あかとり香油　アチモシン　一箱三個入　春風油　金一圓二十錢

第一頭髮の汚れを容易に梳き去るが故に髮を洗ふの煩勞なし故に病中又は病後に用ひて妙なり

● ひげ油　フロチミン　一箱三個入　住の江　金九十錢

髭毛に使用すれば之に適當の粘力を生じ隨意の形狀を保たしめ且在來の品と異にして之を洗去こと容易也

● 改良おしろい　エリアンチン　一箱三個入　春の雲　金二圓十錢

● 高等ねりおしろい　一箱三個入　金七十五錢

品質純白緻蜜にして肌膚に附き易く且佳良の芳香を有し衞生上有益の佳品なり

● うがひ水　エオチン　一箱三個入　しの丶め　金九十錢

口腔を清潔にし粘液を去り臭氣を防止す黴菌を撲滅し虫齒を豫防す出血し易き齒齦を固む咽喉加答兒を豫防す一名水はみがきとも云ふ

● 福原衞生齒磨石鹸　煉製大器金廿五錢　同　小器金十五錢　粉製金十五錢　袋入金三錢

衞生齒磨は口中の黴菌を撲滅するの効あるが故に傳染病豫防として一日も缺くべからざる良品なり

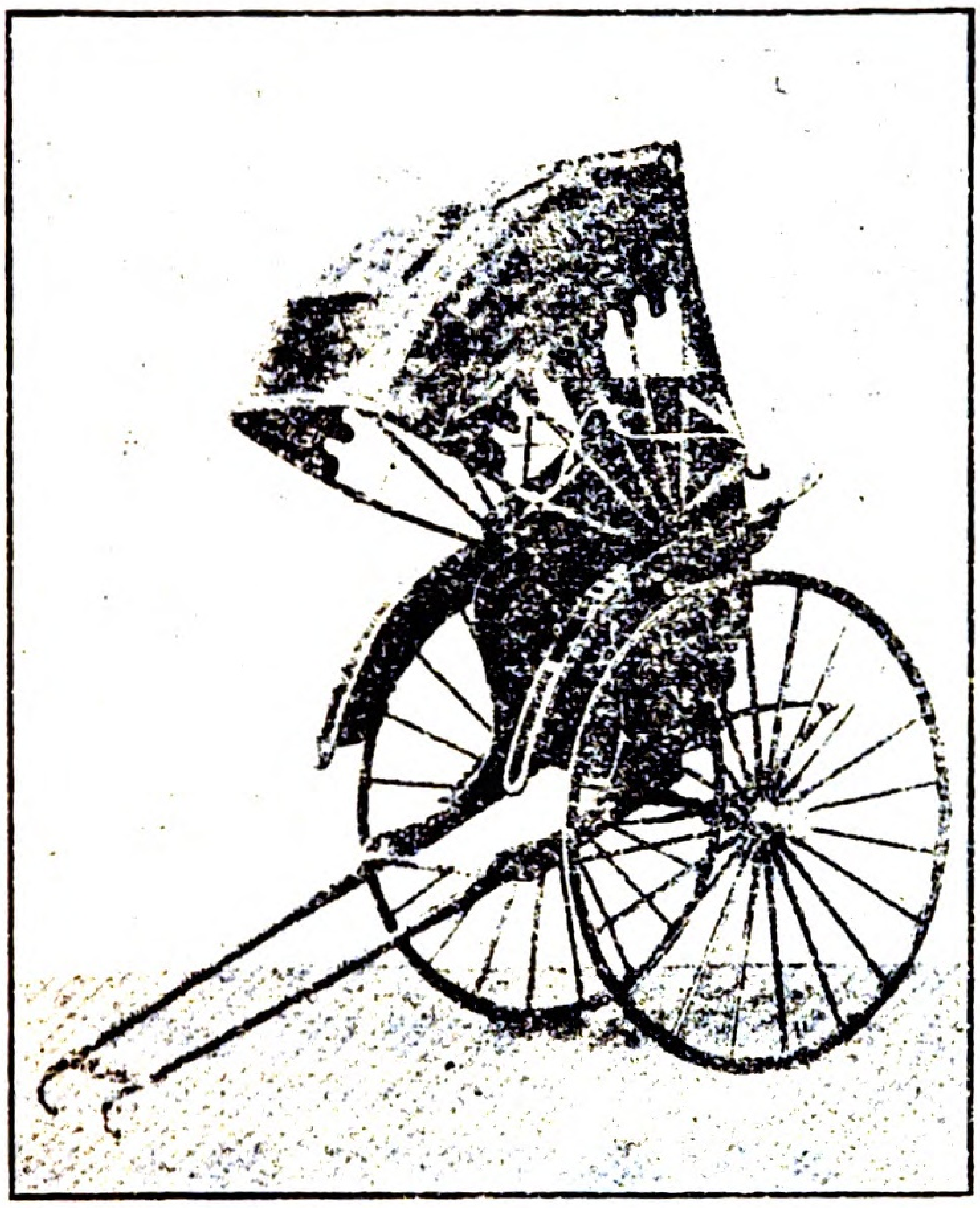
以上各種の化粧料は醫科大學敎授理學博士長井長義先生の考案により今般弊堂に於て製造發賣せるものにして其品質の良好其体裁の優美なる眞に高等化粧料の名に背かざるは弊堂の深く信ずる所なり江湖の紳士貴婦人令嬢諸君普く御愛用の上御高評を賜らん事を願候

東京市京橋區出雲町（電話本局一四六二番）

内外化粧品問屋　資生堂　福原有信

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農商務省貿易品陳列館及び上野公園
商品陳列館に上等人力車出品有之候



保險附人力車大販賣廣告

弊店儀從來人力車製造販賣罷在候處大方諸彥の御引立を蒙り日に增し盛大に相成候段辱奉深謝候弊店製造の人力車は車体搆造の堅牢なること形狀の格好よきこと殊に車の出方至て輕くして輓子の勞力を省き且皆樣方のお乘好きこと等は巳に世人の定論も有之候猶今後益々大勉强を以て製造販賣可仕候間何卒陸續御用被仰付度伏て奉希候謹言

漆細工は本邦特有の技術に有之候へば益々改良進歩の道を謀り益々邦人の技能を發揮せざるべからざることに御座候然るに當業者多くは目前の利を計り粗造品を製出致し候ため終に内外人の不信を來し我が特技たる斯業も今や振はざるに至り候は實に慨嘆の至りに堪へず候小生大に感ずる所有之乍不及徐々挽回の策を講ぜんことを自任仕り以後器物其他塗物一式極造牢に仕揚げ御注文に可應候間御用向の節は何品に不係御一報被成下候はゞ早速參堂可仕候頓首

保險附人力車製造販賣店

東京本郷春木町二丁目五十六番地

伊東竹三郎

私立大日本婦人衛生會規則摘要

一凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

一會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

一本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中女生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

一男子にして本會の主義を贊成する者は之を贊成員とす尤も會費は本會員に同し

一本會の集會は七月八月を除くの外每月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

一每會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し每月各一册つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

一會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむるとを得

一講義演說の際男子の傍聽を禁ずと雖も會員に緣故ある男子は此限にあらず

一會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

一會費は郵便小爲替にて東京神田佐久間町郵便取扱所へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

し尤も一割增とす

一入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふべし

一毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し

一至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

一各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

一本會の集會場は時々報知する者とす

一會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らされは受領證は送付せざるものとす

東京下谷區練塀町四十三番地

私立 大日本婦人衛生會

生義ドクトル伊澤先生ニ就キ新式齒科醫術實習罷在候處今般實姉齒科醫高橋孝子ノ治術處ニ於テ協同齒科諸般ノ診察ニ從事致候

◎診察毎日午前九時ヨリ午後五時迄

東京日本橋區本町二丁目

齒科醫 高橋虎一

本誌廣告料	
廿二字詰一行一回	金十錢
半頁仝	金一圓五十錢
一頁仝	金三圓
總て前金の事	

明治三十一年十月十八日印刷

明治三十一年十月二十日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎

印刷所 神田旅籠町貳丁目拾一番地 同所 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行

（定價金拾錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN